

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号
------	---------

氏 名 大内 晶

論 文 題 目

Survival Benefit of Japanese Extended Lymphadenectomy
for Clinically Node-Negative and Node-Positive Colorectal Cancers

(臨床的リンパ節転移陰性及び陽性結腸直腸癌において本邦の

拡大リンパ節郭清が生存に与える影響)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小寺泰弘

名古屋大学教授

委員

中村 美男

名古屋大学教授

委員

清井 久一

名古屋大学教授

指導教授

柳野 三人

柳野

別紙 1 - 2

論文審査の結果の要旨

今回、単施設における D2 以上のリンパ節郭清を伴う根治手術を施行した Stage I ~ III 結腸直腸癌を対象とし、D3 郭清が結腸直腸癌の生存に与える影響を、臨床的リンパ節転移陰性、及び転移陽性例に分けて傾向スコアマッチングで後方視的に探索した。その結果、臨床的リンパ節転移陽性グループにおいて D3 郭清群は D2 郭清群に比べて局所再発の頻度が低く、また無病生存期間、癌特異的生存期間、全生存期間が良好であった。この結果、本邦の拡大リンパ節郭清は臨床的リンパ節転移陽性結腸直腸癌において局所再発を減少させ、腫瘍学的な長期成績を改善させる可能性が示された。本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 腫瘍組織を露出しないよう結腸間膜を一括で摘出する術式の概念は本邦と欧米でほぼ共通している。支配血管の領域リンパ節の郭清において、本邦では時に血流を温存しながらリンパ節の完全摘除が試みられるが、欧米では全ての血管を結紮切除してリンパ節郭清を行うことが多い。
2. 本研究は 1988 年 1 月から 2007 年 12 月までと比較的長い期間の症例を対象として検討した。この試験期間において、化学療法の分野では新規抗癌剤の台頭により治療成績の大幅な改善が見られたが、手術治療に関しては大きな変化はなかった。本試験期間における治療成績の変化は主に画像や病理診断の向上、及び術後補助化学療法の向上によるものと考えられる。本研究では時代間の治療成績のバイアスを最小化するため、試験期間を前半と後半の二期に分けて傾向スコアマッチングの共変量として使用した。
3. D3 郭清では検索リンパ節数が D2 郭清に比べて多かった。より多くのリンパ節を検索することはより正確なステージングのために大切である。D3 郭清のもう一つの効果として、正確なステージングにより Stage migration を減少させることで治療成績を改善させる可能性が考えられた。

本研究は、局所に限局した結腸直腸癌における D3 郭清が予後に与える影響について、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第 号	氏名	大内 晶
試験担当者	主査 小寺泰弘 副査 ₂ 清平 仁	副査 ₁ 中村義和 指導教授 柳野三人	

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 結腸癌に対する本邦と欧米の術式の違いについて
2. 結腸癌治療の試験期間における発展について
3. 結腸癌の手術成績とStage migrationとの関係について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腫瘍外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員会議の上、合格と判断した。